

平成4年
(1992年)

1月1日

人口・世帯

(12月1日現在)

人口

(前月比+136人)

世帯

(前月比+52世帯)



次代に生きる子どもたちに譲れるまちづくりを

新年明けましておめでとうございます。

平成4年も輝かしい年を迎える市民のみなさんのご健勝と、心からお祝い申し上げます。本年は統一地方選挙後、初の新しい年であり、議員一同心を新たに市政の運営のため努力していく所存です。みなさんの運動力を頼り願うと申します。特に今東欧で起きていることは、民族の文化、伝統、歴史に対する人々の愛着や、それを誇りに思つて生きる姿を感じさせます。私たちもまちづくりに心当たり日々本や「私のまち小田原」の文化とともに、誇りと愛着をもつて受けたたいと思います。

一方、昨年のバブルの崩壊は、経済だけではなく人々の心にも影響を及ぼしました。また、高齢化もますます進んでいます。身近には、より我が家は世界有数の国になりました。元気なお年寄りが多いこと、大変喜ばしいことだと思います。しかし、あまりに早い高齢化による社会的問題が、本市では既に高齢社会対策に着手しておりますが、一日も早い実現が望まれるところです。

さて、本年は「前期計画アラン」、中期計画の秋の年度です。前期計画では、山原球場・尊徳記念館・保健センターなどの施設が完成し、独居老人等緊急通報システム、高齢者生活支援センター、地区フランチャイズ等の事業が実現しました。また、関東学院大学小田原キャンパスが開校し、金剛新町、四ツ谷駅、市内に誕生しました。本年は岡本新町、御宿新町、川東タウンターミナル、並びに総合体育館などの建設事業が実現され、よりますます後期基本計画を実現しますが、九〇年代を課題とします。施設の検討を進めていくところです。出生率の低下、地域規模の縮小問題、東京圏への集積など、市の課題を解決していくことが、市議会いたしましては、議会の果たすべき役割と責任を自覚してまいります。

みなさんのご理解に沿うよう決意を新たにいたします。

小田原市長
山橋敬一郎

小田原市議会議長



守屋 喜代松

明けましておめでとうございます。
お喜び申上げます。

昨年は、昨年以来連続して四百八十万人の方々の参加をいたいた、「おだわらまつり」が無事に終りました。この取組みは経験や成果を、二十世紀に向けて、みなさんとの市政と手を取り合って進めています。原動力として生き、いかないと、と念頭に置いております。

さて、今年は、平成五年度をスタートする「おだわら21世紀アラン」後期計画策定のために、個性的な魅力あふげばくを、「文化都市創造」という方向性の下、市民のみなさんとの共同作品として作り上げていくことをしております。

こうした重要な年であるいま、今年の市の事業を概観しますと、まず、「ハートの施策」の面では、七月に「仮称リセンター」が、九月に「保健・生きがいふれあセントラル」がそれぞれ「ファン」を予定します。図書館・美術館・消防本部・署舎・会館建設の着手のほか、「仮称東京東タウンセターミナル」、体育館、三つの小学校等の建設準備にも取り組んでいます。

さらに、成田、桑原地区工業団地の区画整理事業や

小田原駅周辺再開発事業を引き続き推進するとともに、

-pane

小田原駅東西地下方式で行う

方向性関係機関との具体的な協議を進めています。

一方、上府中公園(「併設」小田原フットガーデン)、そして、昨年建設省が指定してあります。また、既に建設が進む「仮称新酒匂橋」や立自然系博物館や海の義務工事などを実現してもらいたいと思います。

一方、ソフア施設では、高齢者会への対応とし、保・福祉サービスに体系的に取り組むとともに、地政環境調査・実施など、防災政策の一層の強化を図っています。また、新し学習社会の創造を図るために、既存の施設を活用することに、昨年四月に開校したばかりの東洋大学小田原キャンパスと地域連携協力の方針によって検討しています。さらには、環境問題の緩和による減量・再資源化によるため、アーリー・シルト工法による堆削土資源を設置し、全市を半ば取り組んで考えてまいります。

平成四年の年頭になり、本市のみなさんが健やかで明るい生活を送れますように、心からお祈りいたします。

が健やかで明るい生活を送れますように、心からお祈りいたします。

